

平成27年度一般会計決算の状況（概要）

【一般会計収支状況】

一般会計決算額は、歳入が216億3,062万7千円（対前年度比1.2%減）、歳出が207億1,888万1千円（対前年度比2.7%減）で、差し引き9億1,174万6千円の黒字になりました。

そのうち1億761万8千円は、平成28年度に繰り越して行う事業の費用として必要なので、実質的な収支では、8億412万8千円の黒字となりました。

【歳入の決算状況】

自主財源（市が自主的に収入できるお金）の合計は68億4,116万円で歳入の31.6%を占め、このうち市民税や固定資産税などの市税が49億4,754万2千円で歳入の22.9%を占めています。

一方、依存財源（国や県によって額が決められ交付又は割り当てられるお金）の合計は147億8,946万7千円で歳入の68.4%を占めています。このうち地方交付税が62億2,575万1千円で、歳入の28.8%を占めています。

自主財源よりも依存財源が占める割合が高い決算状況であるため、地方交付税の動向、国庫補助負担金の増減など、国の施策により大きな影響を受けやすいため、行政活動の自主性と安定性に欠ける面もあるという点も考慮した行政運営が必要と言えます。

【歳出の決算状況】

歳出を目的別に分類した場合、構成比が大きいものから、民生費99億885万7千円（構成比47.8%）、衛生費25億7,267万7千円（構成比12.4%）、総務費23億3,783万1千円（構成比11.3%）、土木費15億2,785万6千円（構成比7.3%）、公債費14億8,745万2千円（構成比7.2%）、教育費11億5,361万4千円（構成比5.6%）、消防費6億1,515万8千円（構成比3.0%）等となっています。

対前年度との主な増減をみると、農林水産業費において13億9,537万3千円の減、民生費において10億8,439万7千円の増、総務費において3億4,937万6千円の減、土木費において1億7,085万2千円の増、公債費において1億6,913万1千円の減となっています。